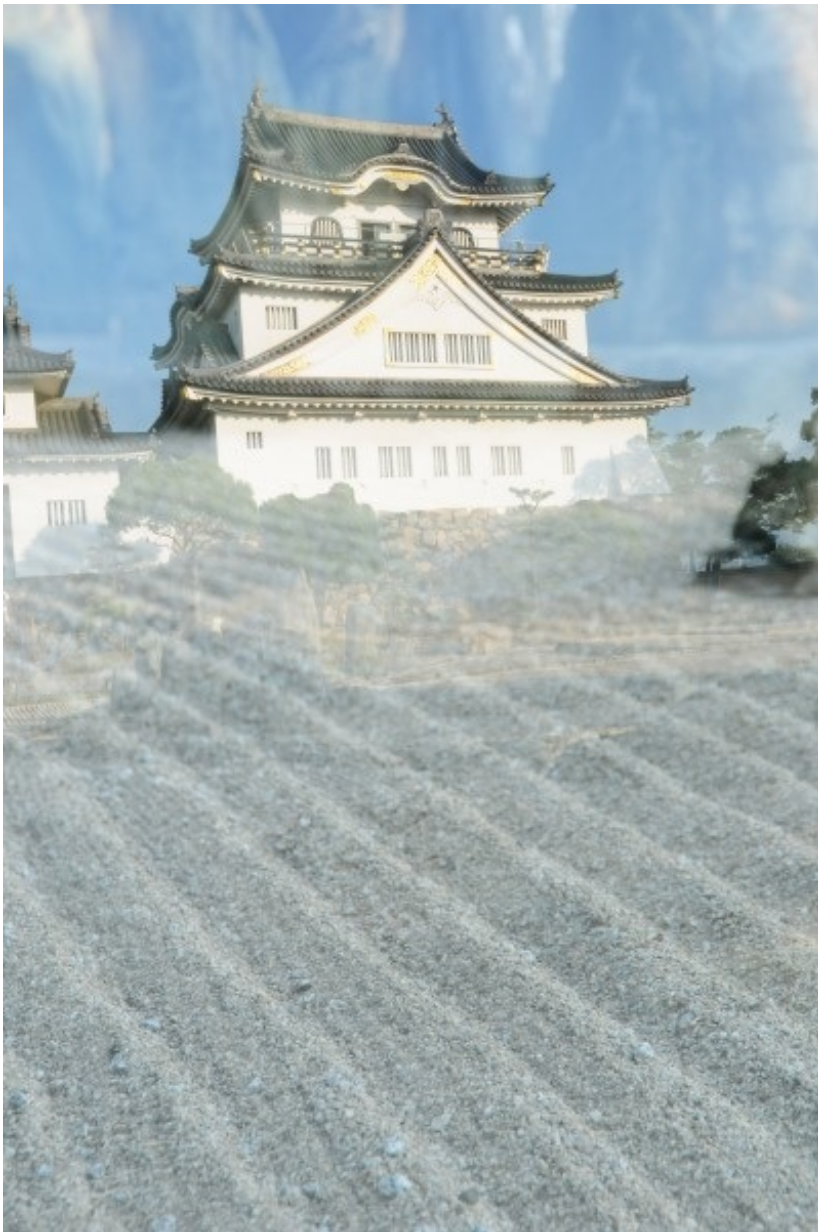


砂上の楼閣



みのすけ



私は今、夢を見ているのかも知れない。

「早く目覚めてくれ」と自分に叫びながら。

川原で石を積み上げている人達がいる。

私は何故石を積み上げているのか彼等に聞いてみた。

彼等は「今は石ではあるがすぐにお金なる」と答えた。

「他人が来ないうちに君も早く積み上げろ。

今がチャンスだ」と私に指示する。

しかし私にはどう見てもそれはただの石であり、なぜお金になるのか説明が無く疑問だけが残る。

私が思案しているとせっついて来る。

どうも無理矢理仲間に入れようとしているとしか思えない。

疑り深い私は彼等の言葉をにわかに信じる事が出来なかった。

彼等の脳裏には石がお金に変化し将来の夢まで描けているのだろう。

煩わしい商習慣に束縛されている現実のお金よりはるかに貯め安く思える。

石はこの川原の何処にでも有り、積み上げる石の形状の選別に一生懸命である。

しかし石の積み上げ方は慎重である。

崩れかけるとより崩れないように工夫する。

その工夫が随所に見られその技術や方法が個人の自慢らしかった。

しかし本音では石積みは崩れ容易くて、なかなかやっかいな仕事のようなのだ。

暫くすると後続の人達がやって来てその作業の説明を受けている。

数人が川原の石積みに賛同し彼等の作業に加わった。

私はその仲間からは、もう邪魔者であり、そこに居場所は無くなった。

私は次の居場所を求め歩き始める。

彼等から別れ、かなりの時間が過ぎ、川の下の方までやって来た。

向こう岸の遙か彼方に山並みが見えた。

秋が近づく気配が山の稜線に見える。

赤と緑の色合いが各所で重なり、山が立体的に見え太っているようだ。

私は向こう岸に渡る事で、自分の夢を達成し豊かになれるように思えた。

その後数日長雨が続き、川が氾濫し堤防が切れ、あの川原の住人達が川に溺れたとの事だ。

もし私が川原であの人達と石積みをやっていたら激流に飲まれていただろう。

私は自分の意志であの川原の住人の仲間になることを拒んだ。

だから幸いにして命拾いをした。

しかし激流に流されなかった私は今も居場所を求めている。

人は自分の価値を石に見出すために歩き続けているのではないのか。

石に絵を描いたら画家、石を削れば彫刻家、石を売れば実業家、石に価値を見出した時が自立の時である。

私は石に何を求めているのだろう。

もう冬がそこまで来ている。

もう旅は止めて居場所決める時なのかも知れない。

あの川原で石を積み上げていた人達は石に希望を見つけ積み上げていたが
私は未だ石に価値を見つけられないでいる。

この先いつまで歩けば石の中に価値を見つけられるのか。

川の氾濫で流された人達はあの川原に楼閣を建てようとしていたのだ。

夢に向かって歩いていたのは彼等だったのかも知れない。

—おわり—

ーお知らせー

”ブクログ”で多重露出撮影のマニュアル（無料）を掲載中です。

本題は「コスモスの多重露出撮影」です。

多重露出撮影に興味のある方は是非お立ち寄りください。

「みのすけ」で検索し出版社名「パプー」です。